

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.8-2【組別・等級別総合原価計算】

収録日：平成 25 年 8 月 18 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 129、131 回（組別）
全経簿記上級過去問 165 回

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	11	38	29	
組別	◎	◎	◎	
工程別組別	×	×	◎	
等級別(より単純に近い)	◎	◎	◎	
等級別（組別に近い）	◎	◎	◎	
等級別（単純に近い）	△	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所では説明又は例題あり

組別総合原価計算は、日商 2 級論点なので、2 級の復習をしっかりと実施して下さい。
日商 1 級での組別は、考え方は 2 級論点でいいのですが、資料の整理能力が試されます。しっかりと過去問の確認をしておいて下さい。

日商 1 級では等級別は、ほとんど出ていません。従って全経上級対策として、（組別に近い計算方法）と（単純に近い計算方法）の考え方（計算処理は簡単）を確認して下さい。

U-TUBE 無料動画ではレジュメで説明します。

ダウンロード講座では、全経上級 165 回の（組別に近い計算方法）の説明をします。

組別総合原価計算（10分で解いてください）

日商2級の論点押さえて下さい

平均法（組間接費は直接作業時間により配賦）

（生産データ）（）内は加工進捗度

	A組	B組
月初仕掛品	300kg（40%）	340kg（50%）
当月投入	2,400kg	3,350kg
合計	2,700kg	3,690kg
月末仕掛品	250kg（80%）	320kg（70%）
完成品	2,450kg	3,370kg

（原価データ）原料費と（）内は加工費

	A組	B組
月初仕掛品	1,446,000（182,700）	1,943,700（431,556）
当月材料費	12,000,000（？）	19,200,000（？）
労務費	7,200,000	10,080,000
直接作業時間	1,500時間	2,100時間

※組間接費 3,384,000円 配賦基準は直接作業時間

A

直接材料

加工

B

直接材料

加工

等級別総合原価計算（組別の簡便法）マックのポテトをイメージしよう

- より単純総合原価計算に近い方法・・・2級の範囲（全経で5点分くらい出るケースあり）
2級の復習をして下さい
- 単純総合原価計算に近い方法・・・・・・生産BOXは1種類にまとめる
投入現価をアウトプット（完成品・月末仕掛品など）に配分する際に、投入原価を等級別に分ける計算をしている（全経152回）
- 組別総合原価計算に近い方法・・・・・・生産BOXは等級製品別につくる（組別に近い）
先入先出法適用時（投入時という事）に合わせて等級別製品へ原価配分（全経149回）

平均法（組間接費は直接作業時間により配賦）

（生産データ）（）内は加工進捗度

	A品	B品
月初仕掛品	600個（0.5）	300個（1/3）
当月投入	5,400個	3,700個
合計	6,000個	4,000個
月末仕掛品	1,000個（0.3）	500個（0.6）
完成品	5,000個	3,500個

（原価データ）原料費と（）内は加工費

	A品	B品
月初仕掛品	760,800（968,500）	354,400（309,600）
当月投入（材料）	10,366,400	
当月投入（加工費）	11,191,000	

等価係数

	A	B
直接材料費	1	0.8
加工費	1	0.6

単純総合原価計算に近い方法 (OUTPUT 法)

P3の問題を解いてみよう

(平均法)

直接材料		加工	
	A 5,000		A 5,000
	B $\times 0.8$ =2,800		B $\times 0.6$ =2,100
	A 1,000 B $\times 0.8=400$		A 3000 B $\times 0.6 \times 0.6=180$

A, B両方BOXに入れて計算しよう

平均法なので借方の数量計算は必要なし (先入先出法の場合は必要)

<ワンポイントアドバイス>

平均法や先入先出法の指示のない問題

月初の進捗率書いていない問題

加工進捗度の当月投入計算できない
 \therefore 先入先出の計算できない \Rightarrow 平均法

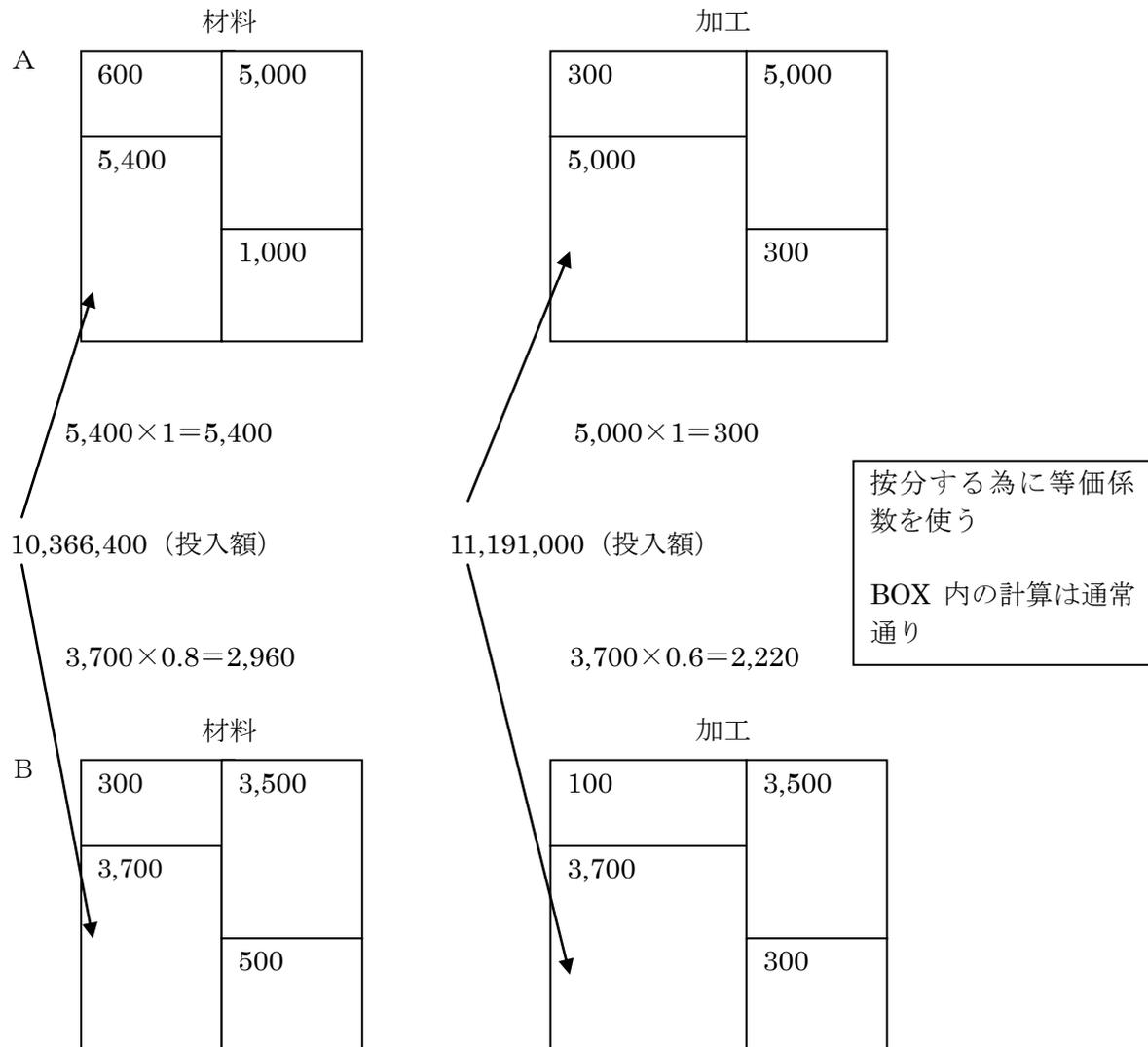
月初の金額が要素 (材料・加工) 別に書かれていない場合

月初と当月の平均計算できない \Rightarrow 先入先出法

組別総合原価計算に近い方法 (INPUT 法)

P3 の問題を解いてみよう

投入原価を積数 (数量×等価係数) で各組へ按分



それでは、全経上級 165 回の (組別に近い計算方法) を実施しましょう。

度外視法の計算だけで結構です (問 1,2 と 5 の度外視法の単位原価) 目標時間は 15 分です

これを実施すると検定簿記講義の例題 7-5 (P128)、練習問題 7-4 (P132) の対応が可能だと思います。確認して下さい。

第165回 全経工業簿記(問題1) 度外視法の計

(AM)

(P)

